

ティオ「軒高規格」拡大開発

- (目的) 近年、工場や倉庫の大型化に伴い、従来よりも高い軒高を要求されるケースが増えてきた。平屋専用のティオの軒高の規格は従来10mであったが、今般12mまで規格を拡大した。
- (特徴) 軒高が高くなることで、風荷重や地震荷重が増え、柱脚反力や接地圧が大きくなる。これらに対応するために、桁行ブレースや柱脚のディテール、及び鋼製基礎梁の仕様見直しを行った。
- (効果) これまでトレオ（自由設計型システム建築）でしか対応できなかった軒高10mを超える案件が、安価なティオ（規格設計型システム建築）で対応できるようになった。
- (販売目標) 年間10棟の販売を目標とする。

耐衝撃性向上「KFパネル」タフコート仕様開発

- (目的) 当社のKFパネル（プレコート押出セメント腰壁パネル）は、腰壁の現場施工の短縮化に大きく貢献する一方で、厚さが30mmと薄いために強い衝撃が加わった時のクラック発生や破損を懸念するユーザーもいた。

従来からKFパネルを2重に貼り合わせることで耐衝撃性を高める仕様もあったが、今回、更に大きな衝撃が加わっても、表面に亀裂を発生させない開発を行った。

- (特徴) KFパネルの表面にアクリルゴム系塗装（膜厚0.8mm）を現地で施す。

タフコート仕様はオプション扱いで、室外側はもとより、室内側の塗装も可能である。

- (効果) 万一、大きな衝撃が加わっても、タフコートには亀裂が生じないため、漏水を防ぐことができる。特に寒冷地においては、融雪水の染み込みを遮断できるため、凍害対策として有効である。なお、パネル本体（地上部分）は、従来通り部分的に簡便に交換することが出来る。

以上

